

珪藻ウイルス研究の最前線と今後の展望

○外丸裕司・長崎慶三(水研セ瀬戸内水研)

演者らが珪藻に感染するウイルスの存在を初めて発見してから約 10 年が経過した。我々はその後、10 種以上の珪藻ウイルスの分離・培養に成功し、それらの性状について精査するとともに、宿主-ウイルスの現場動態を調査した。その結果、珪藻ウイルスの感染性は種特異的かつ株特異的であること、ならびに珪藻ウイルスは現場における宿主の特異的な増加に伴って出現することを明らかにした。これらの結果から、珪藻ウイルスは現場環境中において、珪藻個体群の量的・質的变化に重要な影響を与えている可能性があるものと推察された。今後も引き続き、環境中における珪藻ウイルスの宿主個体群・生活史等への影響を詳細に評価していくことで、新しい珪藻の生態が明らかになるものと期待される。